

第 2 回

医療構造改革に係る都道府県会議資料

～ 医師確保対策について～

平成 19 年 4 月 17 日 (火)

於：講堂 (低層棟 2 F)

医政局総務課

新医師確保総合対策(三省庁とりまとめ)(H18. 8. 31)

【 対 策 】

短期的対応

○19年度予算に反映

○分娩時に医療事故に遭った患者に対する救済制度の検討
平成18年11月29日自民党医療紛争処理のあり方検討会にて、制度の枠組みを決定。

長期的対応

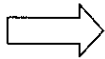
○医学部卒業生の地域定着

- … ①都道府県による地域定着を条件とした奨学金の積極的活用(医学部における地域枠)
- ②医師不足深刻県における暫定的な定員増
(対象10県で最大10人を10年間。医師養成の前倒しという趣旨から、地域定着が図られない場合の見直しを条件)
- ③医師不足の都道府県への自治医科大学の暫定的な定員増
(最大10人を10年間)

医師確保対策の推進

地域間・診療科間等における医師の偏在により、医師不足が深刻になっている状況に対応するため、都道府県地域医療対策協議会の取組に対する支援や、小児科・産科における拠点病院づくりをはじめ、「新医師確保総合対策」(平成18年8月)等に基づく各般の医師確保対策を推進する。

18年度当初
予算額
41億円



19年度 予算 92億円

併せて、地方財政措置として、
・医師確保対策に係る地方単独事業分(※の事業) 30億円
・医師確保対策に係る補助事業の地方負担分 64億円
合 計 94億円

1. 医師派遣についての都道府県等の役割と機能の強化

- 医療対策協議会を都道府県に設置(地方財政措置(6.1億円)【新規】※)
- 地域医療支援中央会議を国に設置【新規】 1百万円
- 医療対策協議会の計画に基づく派遣に協力する病院への助成【新規】 7.1億円
- 拠点病院(マグネットホスピタル)の活用【新規】 3.8億円
- 地域医療の確保を図るための先駆的なモデル事業に助成【新規】 1.9億円
- 都道府県による地域定着を条件とした奨学金(地方財政措置(11億円)【新規】※)
- 市町村による医師不足病院等における医師確保支援*(地方財政措置(12億円)【新規】※)

2. 開業医の役割の強化

- 初期救急の対応に地域の開業医等が参画する仕組みの強化等
・休日夜間急患センターに配置する医師の増員
(地方財政措置(12億円: *の再掲) ※)
- 患者・住民への啓発 5.7億円
・小児救急電話相談事業(＃8000)の拡充(電話相談事業の休日夜間対応・携帯電話の利用等の充実)

3. 地域の拠点となる病院づくりとネットワーク化

- 小児科・産科のネットワーク化のための連携病院の整備費用の助成 5.8億円
- 小児救急病院における医師等の休日夜間配置の充実 24億円
- 臨床研修において医師不足地域や小児科・産婦人科を重点的に支援【新規】 22億円
- 出産・育児等に対応した女性医師等の多様な就業の支援 14億円
- 助産師の活用 1.6億円

4. 患者のアクセスの支援

- 離島巡回診療ヘリ運営事業の創設【新規】 90百万円

5. 医療紛争の早期解決

- 分娩時に医療事故に遭った患者に対する救済制度の設計・調査等の支援 10百万円
- 医療事故に係る死因究明制度の検討等 1.3億円

医療対策協議会の計画に基づく派遣に協力する病院への助成【新規】 医師確保等推進事業(新規)

～都道府県地域医療対策協議会の医師確保に向けた積極的な取組の推進～

平成18年度予算 平成19年度
0百万円 → 705百万円

都道府県医療対策協議会における医師派遣の決定を受け、
具体的な医師派遣調整等の取組を実施

事業例

都道府県

派遣元医療機関

- (派遣準備経費)
- ・事前実務研修の実施
 - ・派遣医師を支援するための環境整備 等



派遣先医療機関

- (受入準備経費)
- ・派遣元医療機関等からの支援のための設備 等

調整

調整

地域医療対策協議会

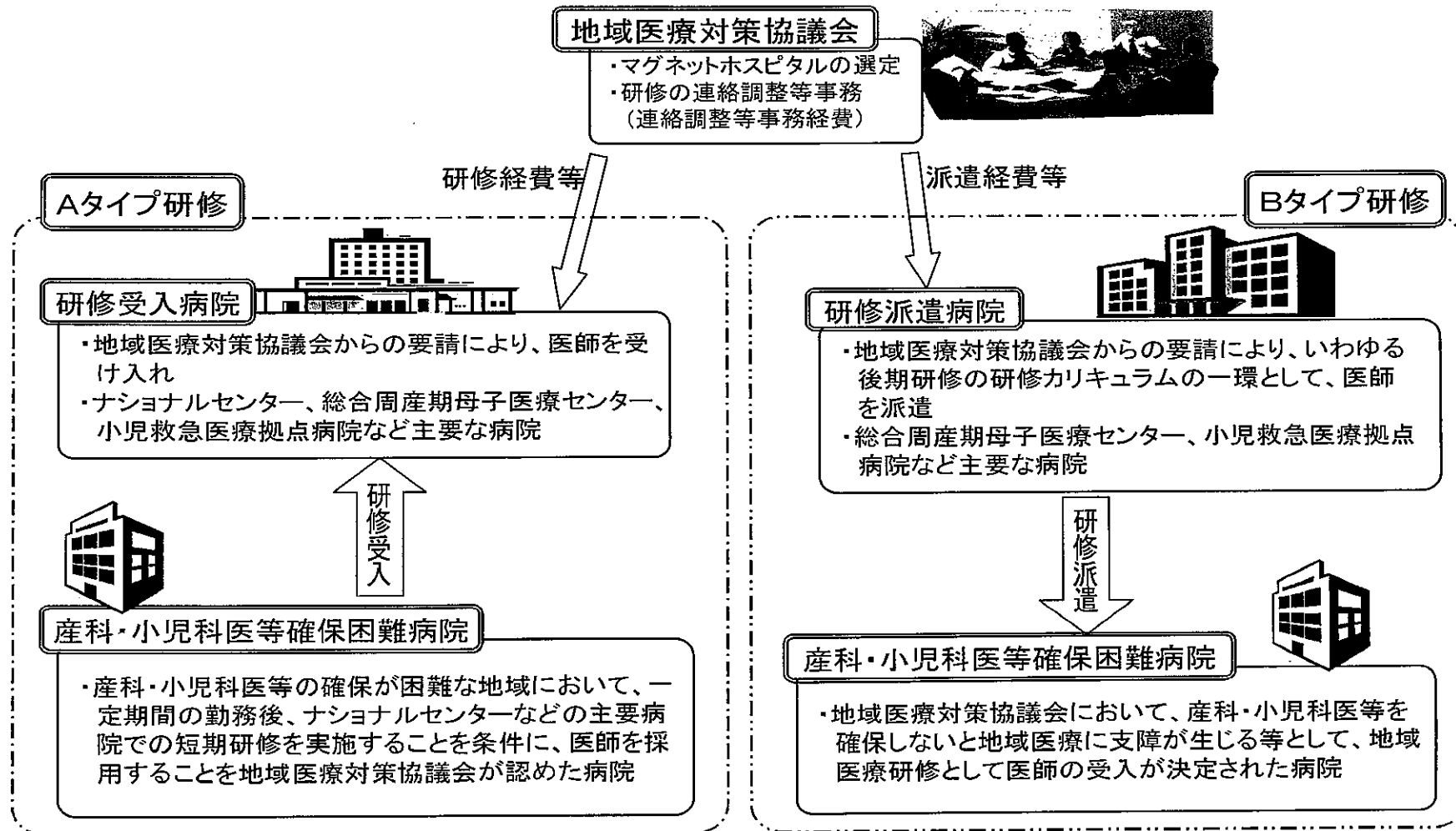
医師確保等の取組

- (医師派遣準備・調整経費)
- ・医師派遣の調整・決定
 - ・派遣元、派遣先医療機関との調整 等

拠点病院(マグネットホスピタル)の活用【新規】

医師にとって魅力のある病院(マグネットホスピタル)を活用した研修等に対する助成を行う。

平成18年度予算額 0百万円 → 平成19年度予算額 3.8億円



小児救急病院における医師等の休日夜間配置の充実

～小児救急医療支援事業、小児救急医療拠点病院運営事業～

救命救急医療(24時間)

- ・救命救急センター
- ・新型救命救急センター

- ・総合周産期母子医療センター
- ・地域周産期母子医療センター

(未熟児等)

入院を要する救急医療(休日・夜間)

- ・病院群輪番制病院
- ・共同利用型病院

入院を要する小児救急医療(休日・夜間)

小児救急医療支援事業(※1)
 (18年度) 965百万円 → (19年度) 1,233百万円
 小児救急医療拠点病院(※2)
 (18年度) 872百万円 → (19年度) 1,069百万円

初期救急医療(休日・夜間)

- ・在宅当番医制
- ・休日夜間急患センター

- ・小児初期救急センター
 (平成18年度補正予算により整備)

小児救急に関する電話相談(休日・夜間)

小児救急電話相談事業

(※1)
 二次医療圏単位で、地域の小児科を標榜する病院が輪番制等により、入院を要する小児の救急患者を受け入れる。

(※2)
 広域(複数の二次医療圏単位)で、都道府県の実情を受けた拠点病院により、入院を要する小児の救急患者を受け入れる。

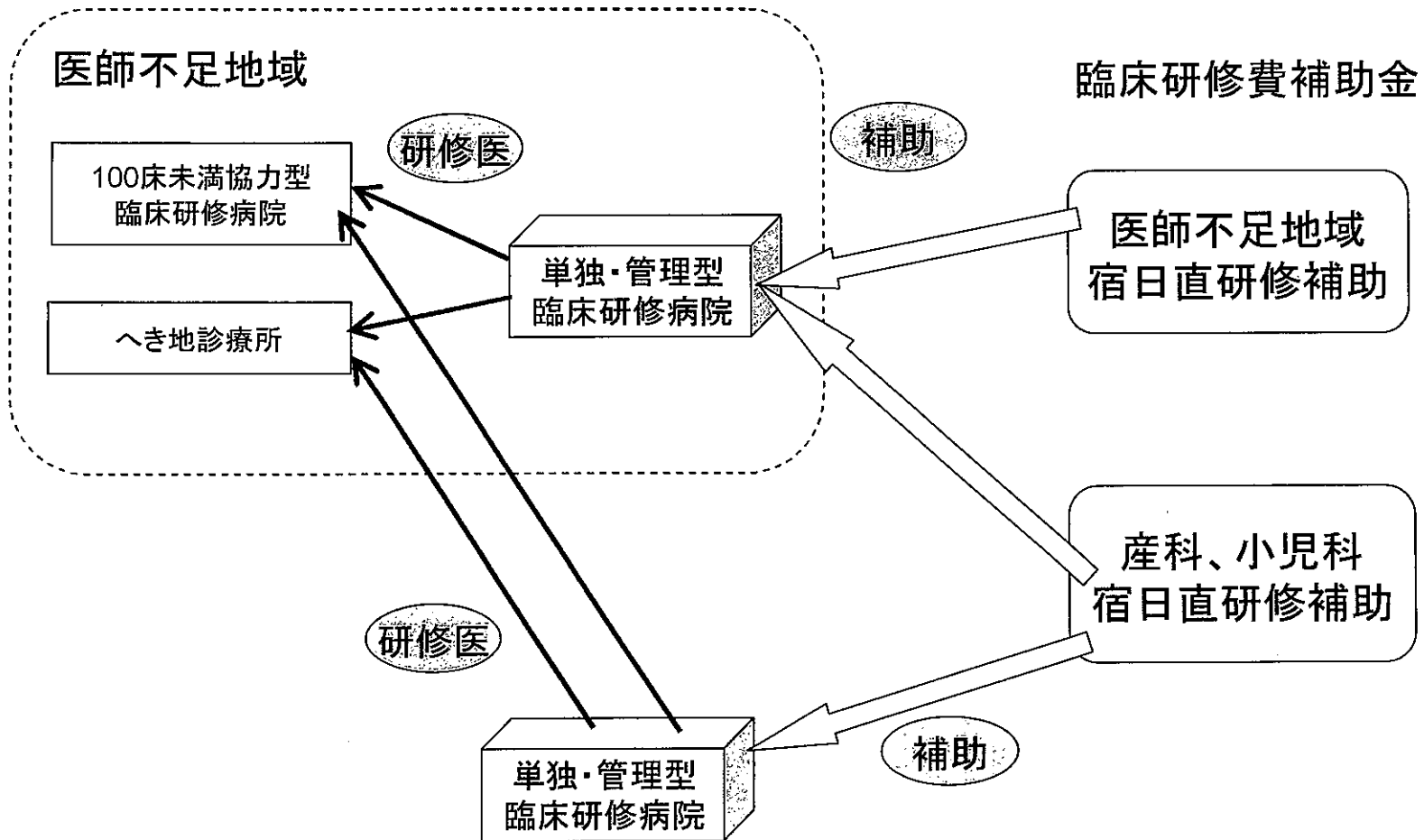
大人の救急患者

子どもの救急患者

臨床研修における医師不足地域や小児科・産婦人科の重点的な支援【新規】

小児科・産婦人科や医師不足地域での病院における研修に対して重点的に支援することにより、地域における医療提供体制の確保を図る。

平成18年度予算額 0百万円 → 平成19年度予算額 22億円



離島巡回診療ヘリ運営事業の設置【新規】

海上移動手段としての民間ヘリの借り上げ

平成18年度予算額 0百万円
→
平成19年度予算額 90百万円

多数の離島を有する
都道府県での巡回診療

へき地医療拠点病院



通常の交通手段では短時間で十分な巡回診療が難しい外海離島群等の地域に対して民間のヘリコプターを活用することにより、容易に巡回診療が行えるよう体制を整備し、当該地域住民への医療提供体制を充実させるとともに、巡回診療に従事する期間の短縮化によって地域医療を提供する医師等の労働力等を高め、地域や診療科における医師の偏在問題への対応を図る。

医師確保等支援チームの設置

1 趣旨

医師の偏在等により、産科等の医療提供体制について問題が生じている地域について、地方厚生局とも連携し、当該地域を所管する都道府県からヒアリング等を行い、問題状況の認識の共有化を図るとともに、解決方策の提言、予算事業の活用方法などの具体的な助言を行うため、「地域医療に関する関係省庁連絡会議」の下に、地域ごとに、関係省庁の担当者からなる「医師確保等支援チーム」を設置する。

2 メンバー

関係省庁の課長級をチームリーダーとし、全国を5つのブロックに分け、ブロックごとにメンバーを配置

3 具体的な活動内容（例）

- (1) 地域における医師不足等に関する問題状況の具体的な把握と助言
- (2) 都道府県が行っている医師確保対策の取り組み状況の具体的な把握と助言
- (3) 都道府県による医師派遣システムの構築に向けた医師確保対策に対する具体的な助言
- (4) 個別の病院の医師不足など緊急的な対応を要するケースに対する具体的な支援策の提示
特に、分娩を取り扱っている産科病院、産科診療所、助産所における医師の状況や分娩数を把握し、助産所の活用など必要な対策を協議
- (5) 医師に加え、助産所をはじめとする看護職員の確保についても同様に取り組む。

医師確保等支援チーム

チームリーダー

(厚生労働省) 医政局総務課長、医政局指導課長、医政局医事課長、医政局看護課長

医政局岡本参事官、雇用均等児童家庭局母子保健課長

(総務省) 自治財政局地域企業企画経営室長

(文部科学省) 高等教育局医学教育課長、大学病院支援室長

北海道・東北ブロック

ブロックリーダー：中村企画官

ブロックサブリーダー：山口補佐（総務課・事）・井内補佐（医事課・医）

チーム員：徳本（指導課）

近畿ブロック

ブロックリーダー：小野看護職員確保対策官

ブロックサブリーダー：川平補佐（指導課・事）・菊岡補佐（総務課・医）

チーム員：村重（医事課）

関東信越ブロック

ブロックリーダー：三石母子保健推進官

ブロックサブリーダー：高鹿補佐（指導課・事）・田邊専門官（指導課・医）

チーム員：佐藤（医事課）

中国四国・九州ブロック

ブロックリーダー：冨澤医療機器・情報室長

ブロックサブリーダー：若林補佐（総務課・事）・佐々木補佐（指導課・医）

チーム員：中根（指導課）

東海北陸ブロック

ブロックリーダー：宮崎医師臨床研修推進室長

ブロックサブリーダー：小澤補佐（医事課・事）・小林補佐（雇児局・医）

チーム員：桑原（指導課）

※ 上記には、必要に応じて総務省、文部科学省の担当職員、地方厚生局の担当者が加わる。

第101回医師国家試験の合格発表について(抜粋)

平成19年3月29日
医政局医事課試験免許室
照会先 渡、山崎
内線2573・2574

平成19年2月17日(土)、18日(日)及び19日(月)に東京都他11か所において実施した第101回医師国家試験の合格発表を平成19年3月29日(木)午後2時から発表する。

なお、当該国家試験の合格者数等は下記のとおりである。

記

| | (受験者数) | (合格者数) | (合格率) |
|---------|--------|--------|-------|
| 第101回医師 | 8,573人 | 7,535人 | 87.9% |

医師国家試験の回数別合格状況

| 回数 | 施 行 年 月 日 | 受験者数(人) | 合格者数(人) | 合格率(%) |
|-----|--------------|---------|---------|--------|
| 92 | 10.3.21 ~ 22 | 8,716 | 7,806 | 89.6 |
| 93 | 11.3.20 ~ 21 | 8,692 | 7,309 | 84.1 |
| 94 | 12.3.18 ~ 19 | 8,934 | 7,065 | 79.1 |
| 95 | 13.3.17 ~ 19 | 9,266 | 8,374 | 90.4 |
| 96 | 14.3.16 ~ 18 | 8,719 | 7,881 | 90.4 |
| 97 | 15.3.15 ~ 17 | 8,551 | 7,721 | 90.3 |
| 98 | 16.3.20 ~ 22 | 8,439 | 7,457 | 88.4 |
| 99 | 17.2.19 ~ 21 | 8,495 | 7,568 | 89.1 |
| 100 | 18.2.18 ~ 20 | 8,602 | 7,742 | 90.0 |
| 101 | 19.2.17 ~ 19 | 8,573 | 7,535 | 87.9 |

男女別合格者数等の推移

| 回数 | | 総 数 | 男 | 女 | 男女別合格率 | |
|--------------|----------------|-------|-----------------|-----------------|--------|------|
| | | | | | 男 | 女 |
| 97 H15 春 | 受 験 者 数 (%) | 8,551 | 5,781 (67.6) | 2,770 (32.4) | 88.5 | 94.1 |
| | 合 格 者 数 (%) | 7,721 | 5,114 (66.2) | 2,607 (33.8) | | |
| 98 H16 春 | 受 験 者 数 (%) | 8,439 | 5,717 (67.7) | 2,722 (32.3) | 86.3 | 92.7 |
| | 合 格 者 数 (%) | 7,457 | 4,935 (66.2) | 2,522 (33.8) | | |
| 99 H17 春 | 受 験 者 数 (%) | 8,495 | 5,744 (67.6) | 2,751 (32.4) | 87.4 | 92.7 |
| | 合 格 者 数 (%) | 7,568 | 5,019 (66.3) | 2,549 (33.7) | | |
| 100 H18 春 | 受 験 者 数 (%) | 8,602 | 5,892 (68.5) | 2,710 (31.5) | 88.5 | 93.3 |
| | 合 格 者 数 (%) | 7,742 | 5,213 (67.3) | 2,529 (32.7) | | |
| 101 H19 春 | 受 験 者 数 (%) | 8,573 | 5,811 (67.8) | 2,762 (32.2) | 86.4 | 91.0 |
| | 合 格 者 数 (%) | 7,535 | 5,022 (66.6) | 2,513 (33.4) | | |